

科目ナンバリング		U-LAS00 20005 LJ34									
授業科目名 <英訳>		認識人間学Ⅰ Epistemological Human StudiesⅠ				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 青山 拓央			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		哲学・思想(各論)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火4		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)											
[授業の概要・目的]											
世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、おもに分析哲学のさまざまな知見を解説する予定です（必要に応じて、論理学の入門的なお話しもします）。『分析哲学講義』（ちくま新書）を参考書として講義を進めつつ、同書に記されていない多様な研究成果も、随時紹介していく予定です。											
[到達目標]											
分析哲学の基礎的な知識を得るとともに、言語と認識との関係について、さまざまな観点から理解を深める。											
[授業計画と内容]											
下記のテーマに沿って、言語と認識との関係を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。											
1．ガイダンス・分析哲学とは何か（第1週～第2週） 2．言語の「意味」の客観性（第3週～第5週） 3．名前と述語の機能について（第6週～第8週） 4．文脈原理と全体論（第9週～第11週） 5．可能世界と形而上学（第12週～第14週）											
第16週：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 青山拓央『分析哲学講義』（筑摩書房）ISBN:9784480066466											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。											
[その他（オフィスアワー等）]											
教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。											